

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

日本国民すべてのために

二本松市立二本松第三中学校

3年 渡邊 穂乃夏

今年6月、日本中を揺るがした、東京都知事辞任の1件。事の発端は、都知事が、政治資金をプライベートに使っていたことだった。私はこれを知り、言葉にできない程の怒りをおぼえた。国民が納めた税金をプライベートに使うなんて、政治家として、ましてや日本の首都である東京都の知事としてのプライドはないのだろうか、と思った。

私達のような中学生などは、まだ選挙権もなく、政治や経済に直接の関わりはないかもしれない。一番身近だと思われる消費税についても、深く考えたことがない人が大半を占めるかもしれない。実際私も、消費税が5パーセントから8パーセントに引き上げられた時には、「計算がしにくい。」だとか、「高くなる。」と言うような、単純すぎる考えしか持っていなかった。だが、消費税を10パーセントまでさらに引き上げる見通しだと知った時「日本がピンチだ。」と気づいた。そして同時に、「日本は、ピンチを救うために税を上げているのかも知れない。」と思った。税は、日本国民の良い暮らしのためにあると、改めて実感した瞬間だった。

日本では、国民に対し、「納税の義務」がある。子供からお年寄りまで、様々な税と向き合う必要があるのだ。5歳の子供だって、おつかいをすれば消費税を納める。おじいさんだって、ゴルフ場でゴルフを楽しめばゴルフ場利用税を納める。そう、日本で暮らす全ての人々が、国民であり、納付者なのだ。

私はまだ15歳になったばかりの中学生。だから、自分達の将来を預ける人に、1票入れることはできない。しかし、日本の動きに対して、意見を抱く権利は、誰にでも平等に与えられているだろう。

消費税のさらなる引き上げに、反対する人が多数いると思う。だが私は賛成だ。理由は「計算しやすいから。」ではない。税が引き上げられることによって、日本が幸せな国になることを期待したいからだ。これが、今の私が抱いている意見である。

私達国民に納税の義務があるように、国民が納めた税金を扱う立場の人には、「国民を幸せにする義務」があると考えている。だから、6月の一件のようなことは、大変、許されがたい行為だと思う。日本の未来のために2度と、このようなことがあってはならないことは確かだ。18歳以上の有権者には、何のために選挙権が18歳からになったのかを考え、自分達の将来を安心して預けられる人を選んでもらいたい。そして、3年後、私が18歳になったら、そのような人に1票入れたいと思う。